

平成 2 3 年度  
森林整備事業における  
事前評価結果（案）

平成23年度 森林環境保全整備事業事前評価実施地区取りまとめ表

整理 番号	都道府 県名	事業実施地域(地区)名		事業実施主体	総便益 B (千円)	総費用 C (千円)	分析結果 B/C	必須事項						優先配慮事項									備考		
		地域名	(地区名)					種 類	1	2	3	4	5	6	1 有効性		2 効率性	3 事業の実施環境等							
															(1)	(2)		(1)	(1)	(2)	(3)				
1	北海道	留萌		北海道、市町村、森林組合等	18,044,293	6,704,840	5.61																		総事業費 3,401,530 森林整備 3,401,530 路網整備
					15,510,810																				
					2,146,849																				
					1,944,418																				
					計 37,646,370																				
2	北海道	上川北部		北海道、市町村、森林組合、森林所有者等	18,044,138	8,616,587	4.54																		総事業費 3,982,965 森林整備 3,882,965 路網整備 100,000
					16,393,555																				
					2,431,750																				
					2,139,816																				
					126,825																				
計 39,136,084																									
3	北海道	宗谷		市町村、森林組合、森林所有者等	25,806,863	8,331,615	6.56																		総事業費 4,630,380 森林整備 4,630,380 路網整備
					24,435,924																				
					2,801,813																				
					1,613,295																				
					計 54,657,895																				
4	北海道	石狩空知		北海道、市町村、森林組合等	29,318,886	11,336,562	5.26																		総事業費 5,730,537 森林整備 5,660,510 路網整備 70,027
					24,440,339																				
					3,524,555																				
					2,391,674																				
					66,704																				
計 59,742,158																									



整理番号	都道府県名	事業実施地域(地区)名		事業実施主体	総便益 B (千円)	総費用 C (千円)	分析結果 B/C	必須事項						優先配慮事項						備考					
								1 有効性						2 効率性		3 事業の実施環境等									
		種	類		1	2	3	4	5	6	(1)	(2)	(1)	(1)	(2)	3									
																(3)	(3)	(3)							
9	北海道	十勝		北海道、市町村、森林組合等	48,331,987	21,559,215	4.91							B	A	A	A	A	A	A	A	B	B	B	総事業費 11,590,400 森林整備 11,495,400 路網整備 95,000
					45,002,473																				
					6,948,478																				
					5,502,950																				
					91,487																				
					計 105,877,375																				
10	北海道	胆振東部		北海道、市町、森林組合、森林所有者等	19,239,251	6,952,559	5.57							A	A	A	A	A	-	A	A	B	A	A	総事業費 4,550,180 森林整備 4,550,180 路網整備
					15,934,113																				
					2,213,044																				
					1,402,000																				
					計 38,788,408																				
					29,623,573																				
11	北海道	日高		北海道、町、森林組合等	25,304,918	9,093,929	6.51							B	A	A	A	A	-	A	A	B	A	A	総事業費 5,366,505 森林整備 5,366,505 路網整備
					2,753,897																				
					1,521,846																				
					計 59,204,234																				
					35,037,457																				
					30,026,279																				
12	北海道	後志胆振		北海道、市町村、森林組合、森林所有者等	4,123,372	12,738,049	5.61							A	A	A	A	A	A	A	A	B	A	A	総事業費 6,586,620 森林整備 6,586,620 路網整備
					2,324,352																				
					計 71,511,460																				













整理 番号	都道府 県名	事業実施地域(地区)名		事業実施主体	種 類	総便益 B	総費用 C	分析結果 B / C	必須事項						優先配慮事項						備考								
		(千円)	(千円)			1 有効性	2 効率性		3 事業の実施環境等				(1)	(2)	(1)	(2)	(3)												
									(1)	(2)	(1)	(2)					(1)	(2)	(3)										
37	新潟	中越		長岡市他 中越よつば森林組合 他		12,681,060 6,323,810 1,995,061 1,132,415 計 22,132,347	2,896,314	7.64										B	A	B	A	B	A	B	B	B	A	A	総事業費 1,245,314 森林整備 1,245,314 路網整備
38	富山	庄川		富山県 南砺市 富山県西部森林組合 富山県農林水産公社		19,876,791 6,856,036 2,624,169 2,193,325 19,567 0 0 0 0 0 計 31,569,888	2,703,506	11.67										A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	総事業費 1,376,093 森林整備 1,344,093 路網整備 32,000
39	石川	能登		石川県、市町、林業公 社、森林組合等		9,547,921 6,336,576 1,439,301 2,244,580 計 19,568,378	4,437,519	4.40										B	A	B	B	A	B	B	B	C	B	B	総事業費 2,313,926 森林整備 2,313,926 路網整備 0
40	石川	加賀		石川県、市町、林業公 社、森林組合等		9,525,547 4,951,222 1,229,179 2,568,402 計 18,274,350	3,523,954	5.18										B	A	B	B	A	B	B	B	C	B	B	総事業費 1,855,309 森林整備 1,855,309 路網整備 0































整理 番号	都道府 県名	事業実施地域(地区)名		事業実施主体	種 類	総便益 B	総費用 C	分析結果 B / C	必須事項						優先配慮事項						備考						
		(千円)				(千円)			1 有効性	2 効率性	3 事業の実施環境等																
											(1)	(2)	(1)	(1)	(2)	(3)											
101	鹿児島	大隅		鹿児島県 鹿屋市		7,881,852	3,530,317	4.75	1	2	3	4	5	6	B	A	A	A	B	A	A	B	B	A	A	総事業費 3,136,572	
				垂水市 東串良町		3,548,096																					3,136,572
				錦江町 南大隅町		2,158,669																					
				肝付町 曾於市		3,196,617																					
				志布志市 大崎町																							
				きもつき森林組合																							
				垂水市森林組合																							
				南大隅森林組合																							
				内之浦森林組合																							
				曾於市森林組合																							
曾於地区森林組合																											
林業事業体																											
計					16,785,234																						

【記載要領】

- 整理番号欄には、事業別に地域(地区)の通し番号を記入する。
- 総便益の内訳については、便益の種類番号( 水源かん養便益、 山地保全便益、 環境保全便益、 木材生産便益、 森林整備経費縮減等便益、 一般交通便益、 森林の総合利用便益、 災害等軽減便益、 維持管理費縮減便益、 山村環境整備便益、 その他の便益)に応じて記載する。
- 備考欄には、森林整備、路網整備ごとの総事業費(事業期間に必要な経費)を記入する。

## 事前評価個表

整理番号	1
------	---

地域（地区）名	留萌 <sup>るもい</sup> 地域	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	北海道	対象市町村	増毛町ほか8市町村
事業実施期間	H23 ~ H27（5年間）	事業実施主体	北海道、市町村、森林組合等

事業の概要・目的	<p>留萌森林計画区は北海道の北西部に位置する留萌振興局全域と宗谷総合振興局の一部（幌延町）を合わせた地域であり、南北155km・東西67kmと南北に長い地域である。</p> <p>西は日本海に面し、北はサロベツ原野を挟んで宗谷総合振興局、南は増毛山地を挟んで石狩振興局、東は天塩山地を挟んで上川、空知各総合振興局と接し、1市7町1村で構成されている。</p> <p>本計画区の総面積401,991haのうち、森林面積は324,610ha（森林率81%）で、内訳は国有林196,011ha、道有林25,467ha、一般民有林103,132haとなっている。</p> <p>計画区内の民有林面積のうち、トドマツを主体とした人工林の面積は37,041ha（人工林率29%）となっている。</p> <p>また、民有林内の林道延長は239.8kmで、公道等を含む林道密度は7.68m/haとなっており、このほかに林道の支線としての作業道が整備されている。</p> <p>民有林内の人工林37,041haのうち、17,158ha（人工林の46%）が 齢級以下となっており、適正な保育・間伐を必要とする林齢にあるが、木材価格低迷や林業従事者の高齢化、後継者の不在などから、手入れが遅れている森林が多く見られる。</p> <p>また、民有林での間伐等実施林分における搬出率（面積<sup>ヘ</sup>-ス）が30%前後と低位（全道平均45%前後）で推移していることもあり、留萌地域森林環境保全整備事業計画を作成し、これに基づく森林整備及び路網整備を行い、併せて搬出間伐を推進することで林業の再生を図りながら公益的機能を確保する必要がある。</p> <p>なお、森林施業及び路網整備については、コスト縮減の取組を実施することとしており、地元関係者の意欲も高い。</p>
事業内容・事業費	<p>森林整備：17,397ha 人工造林、樹下植栽等、下刈、枝打ち、除伐、間伐、森林作業道等</p> <p>総事業費：3,401,530千円</p>
費用対効果分析結果	B/C = 5.61
評価結果	<p>必要性：保育対象林分の賦存状況、森林整備の緊急性等から見て必要性が高い。</p> <p>効率性：投下する費用を上回る効果が見込まれることから、事業の効率性が認められる。</p> <p>有効性：健全な森林づくり等によって水源かん養、国土保全等の機能の確保に加え、将来の優良材の安定的な生産の上で有効である。</p> <p>本計画では、森林の多面的機能を発揮するために必要な森林整備と路網整備が適切に計画されている。</p> <p>また、効率性、有効性も十分に認められることから、森林環境保全整備事業計画として実施することが適当である。</p>

整理番号

1

## 便 益 集 計 表

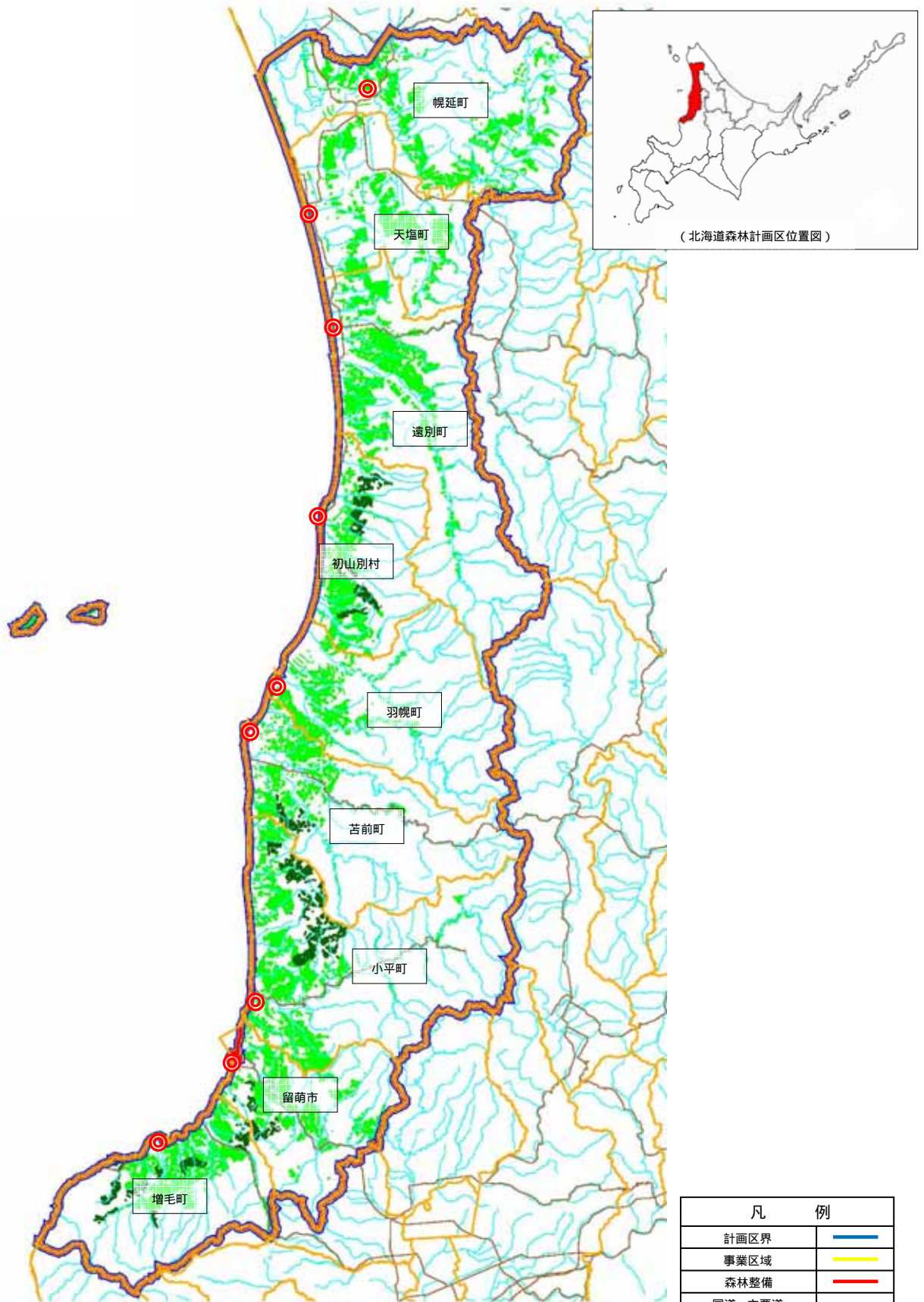
(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業  
 地域名: 留萌

北海道  
 (単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	7,717,344	
	流域貯水便益	3,814,630	
	水質浄化便益	6,512,319	
山地保全便益	土砂流出防止便益	15,510,810	
環境保全便益	炭素固定便益	2,146,849	
木材生産便益	木材生産確保・促進便益	1,944,418	
総 便 益 (B)		37,646,370	
総 費 用 (C)		6,704,840	
費用便益比	$B \div C = \frac{37,646,370}{6,704,840} = 5.61$		

# 森林環境保全整備事業 留萌地域（北海道）概要図



## 事前評価個表

整理番号	2
------	---

地域（地区）名	<small>かみかわほくぶ</small> 上川北部地域	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	北海道	対象市町村	和寒町ほか7市町村
事業実施期間	H23～H27（5年間）	事業実施主体	道、市町村、森林組合、森林所有者等

事業の概要・目的	<p>上川北部森林計画区は、北海道の中央からやや北に位置し、名寄盆地を中心に東部には北見山地、西部には天塩山地とその支脈に囲まれ、中央には天塩岳を源とする天塩川が縦断しており、豊かな自然を形成している。</p> <p>本計画区の総面積419,740haのうち、森林面積は324,772ha（森林率77%）であり、その内訳は国有林162,723ha、道有林81,586ha、その他一般民有林80,463haとなっている。また、計画区内の林道延長は417,000mで公道等を含む林内道路密度は9.0m/haとなっており、このほかに林道の支線としての作業道が整備されている。</p> <p>一般民有林は、カラマツ、トドマツを主体とした人工林が32,698ha（人工林率41%）であり、うち63%がⅦ齢級以下の若齢級で、適正な保育・間伐を必要とする林齢にあるが、近年の木材価格の低迷と林業従事者の高齢化や不況等から手入れが不十分な森林が見られるようになってきた。</p> <p>このため、上川北部地域森林環境保全整備事業計画を作成し、これに基づく森林整備及び路網整備を推進する必要がある。</p> <p>本計画に基づき、森林の配置や齢級構成に応じ森林整備や路網整備を行うことによって、森林の有する多面的機能の発揮が可能となる。また、これらの整備に関する地元関係者の意欲は高く、コスト縮減を踏まえて実施することとしている。</p> <p>なお、他産業との連携等に関しては、農耕地の多くが森林に近接していることから、農林業の振興、農林道の整備において関係部局等との連携を図っている。</p>
事業内容・事業費	<p>森林整備：21,050ha 人工造林、樹下植栽等、下刈り、枝打ち、除伐、間伐等</p> <p>路網整備：3,600m 林業専用道開設</p> <p>総事業費：3,982,965千円</p>
費用対効果分析結果	B/C = 4.54
評価結果	<p>必要性：保育対象林分の賦存状況、森林の整備の緊急性等から見て必要性が高い。</p> <p>効率性：投下する費用を上回る効果が見込まれることから、事業の効率性が認められる。</p> <p>有効性：健全な森林づくり等によって水源かん養、国土保全等の機能の確保に加え、将来の優良材の安定的な生産の上で有効である。</p> <p>本計画では、森林の多面的機能を発揮するために必要な森林整備と路網整備が適切に計画されている。</p> <p>また、効率性、有効性も十分に認められることから、森林環境保全整備事業計画として実施することが適当である。</p>

## 便 益 集 計 表

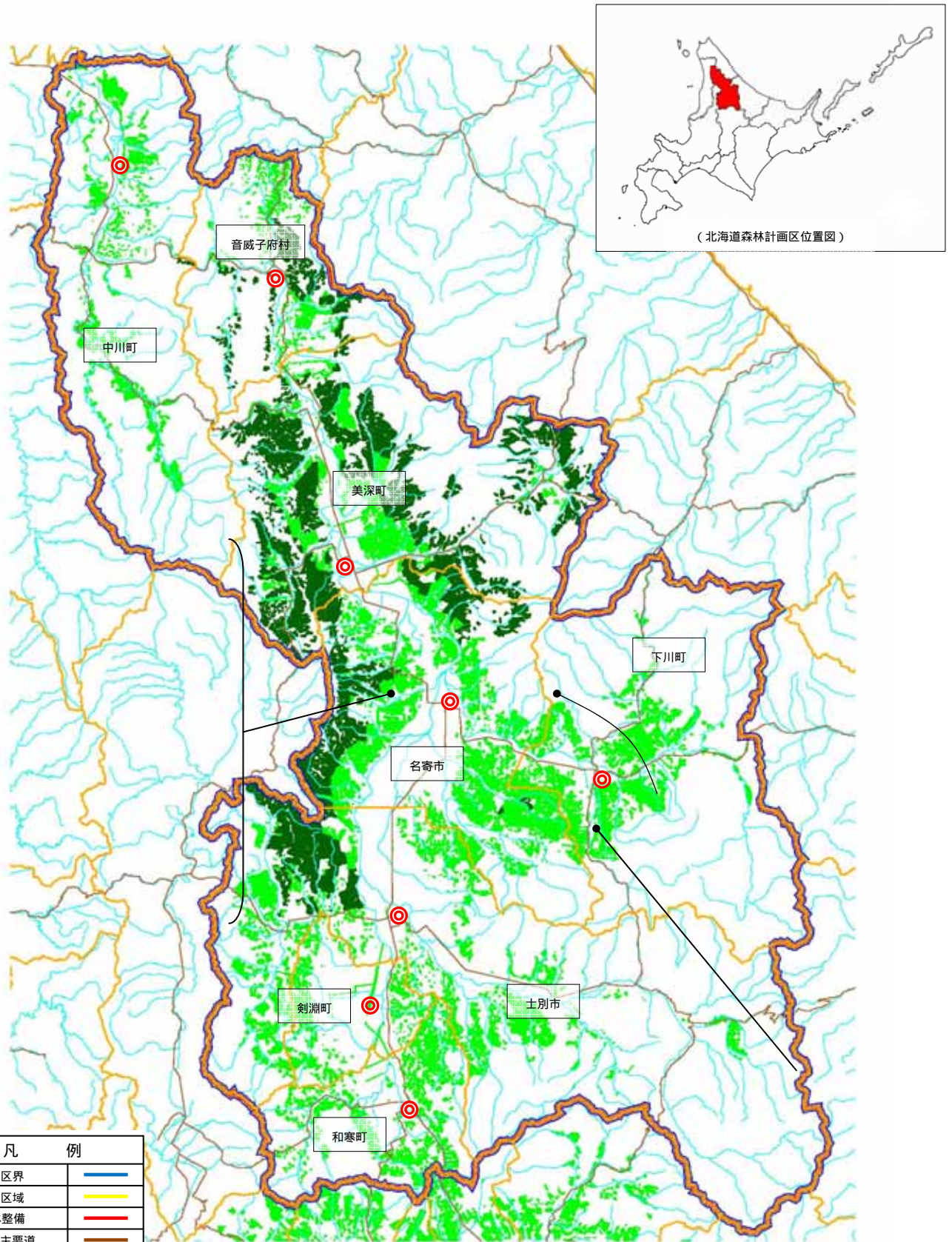
(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業  
 地域名: 上川北部

北海道  
 (単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	9,285,219	
	流域貯水便益	3,233,700	
	水質浄化便益	5,525,219	
山地保全便益	土砂流出防止便益	16,393,555	
環境保全便益	炭素固定便益	2,431,750	
木材生産便益	木材生産確保・促進便益	2,139,816	
森林整備経費縮減等便益	森林整備促進便益	126,825	
総 便 益 (B)		39,136,084	
総 費 用 (C)		8,616,587	
費用便益比	$B \div C = \frac{39,136,084}{8,616,587} = 4.54$		

# 森林環境保全整備事業 上川北部地域（北海道）概要図



凡 例	
計画区界	
事業区域	
森林整備	
国道・主要道	
河川	
市町村界	
市町村役場所在地	
一般民有林（人工林）	
道有林（人工林）	

## 事前評価個表

整理番号	3
------	---

地域（地区）名	宗谷地域	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	北海道	対象市町村	猿払村ほか7市町村
事業実施期間	H23～H27（5年間）	事業実施主体	市町村、森林組合、森林所有者等

事業の概要・目的	<p>宗谷森林計画区は、北海道北部に位置し、地形は低山性、西は日本海、東はオホーツク海、北は宗谷海峡と3方が海に面した計画区である。</p> <p>本計画区の総面積405,079haのうち、森林面積は286,721ha（森林率71%）で、そのうちトドマツを主体とした人工林の面積は76,735ha（人工林率27%）となっている。また、計画区内の林道延長は427.5kmで、公道等を含む林内道路密度は3.39m/haとなっており、このほかに林道の支線として作業道が整備されている。</p> <p>計画区内の民有林人工林38,464haのうち21,547ha（人工林の56%）がⅦ齢級以下で、適正な保育・間伐を必要とする林齢にあるが、近年の木材価格の低迷と林業従事者の高齢化や不況等から手入れが不十分な森林が見られるようになってきた。</p> <p>このため、宗谷地域森林環境保全整備事業計画を作成し、これに基づく森林整備及び路網整備を推進する必要がある。</p>
事業内容・事業費	<p>森林整備：25,590 ha 人工造林、樹下植栽等、下刈り、枝打ち、除伐、間伐、森林作業道等</p> <p>総事業費：4,630,380千円</p>
費用対効果分析結果	B/C = 6.56
評価結果	<p>必要性：保育対象林分の賦存状況、森林整備の緊急性等から見て必要性が高い。</p> <p>効率性：投下する費用を上回る効果が見込まれることから、事業の効率性が認められる。</p> <p>有効性：健全な森林づくり等によって水源かん養、国土保全等の機能の確保に加え、将来の優良材の安定的な生産の上で有効である。</p> <p>本計画では、森林の多面的機能を発揮するために必要な森林整備と路網整備が適切に計画されている。</p> <p>また、効率性、有効性も十分に認められることから、森林環境保全整備事業計画として実施することが適当である。</p>

## 便 益 集 計 表

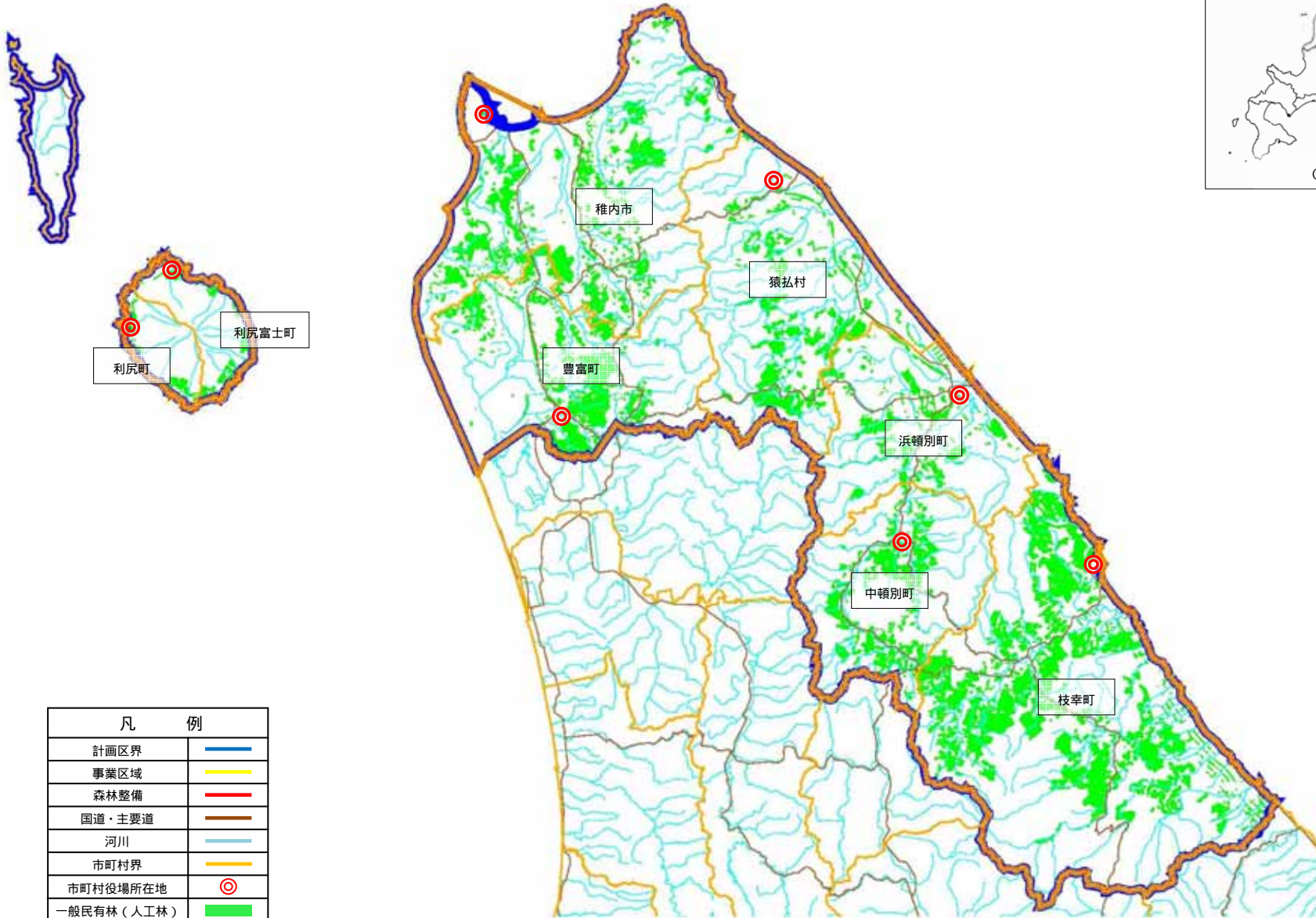
(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業  
 地域名: 宗谷

北海道  
 (単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	11,052,728	
	流域貯水便益	5,449,970	
	水質浄化便益	9,304,165	
山地保全便益	土砂流出防止便益	24,435,924	
環境保全便益	炭素固定便益	2,801,813	
木材生産便益	木材生産確保・促進便益	1,613,295	
総 便 益 (B)		54,657,895	
総 費 用 (C)		8,331,615	
費用便益比	$B \div C = \frac{54,657,895}{8,331,615} = 6.56$		

# 森林環境保全整備事業 宗谷地域（北海道） 概要図



凡 例	
計画区界	
事業区域	
森林整備	
国道・主要道	
河川	
市町村界	
市町村役場所在地	
一般民有林（人工林）	
道有林（人工林）	

## 事前評価個表

整理番号	4
------	---

地域（地区）名	<small>いしかりそらち</small> 石狩空知地域	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	北海道	対象市町村	積丹町ほか34市町
事業実施期間	H23～H27（5年間）	事業実施主体	道、市町村、森林組合等

事業の概要・目的	<p>石狩空知森林計画区は、北海道の中央部よりやや西寄りに位置し、北西部は増毛山地と天塩山地、東部は夕張山系、南部は馬追丘陵に囲まれ、西部は日本海に面する。 空知管内から石狩管内にかけて石狩川が縦走り、その流域には広大で肥沃な石狩平野が広がる。</p> <p>気候は概ね日本海側の気候で多雪地帯であるが、地域によっては太平洋側の気候や内陸性の気候の特徴を併せ持つ。</p> <p>本計画区の森林面積は745千haであり、総土地面積の66%を占めており、民有林面積は森林全体の40%の294千haである。</p> <p>民有林の内、人工林は全体の24%にあたる18千haであるが、森林所有者の高齢化や林業採算性の低下等により、森林所有者の森林整備に対する意欲や関心が薄れており、間伐遅れの林分が見られるようになっている。このような状態が続き、森林整備が停滞すれば、森林の公益的機能の発揮、資源の循環利用等に支障を来すこととなる。</p> <p>このため、石狩空知地域森林環境保全整備事業計画を作成し、これに基づく森林整備及び路網整備を推進する必要がある。</p> <p>本計画に基づき、森林整備や路網整備を行うことによって、森林の有する多面的機能の発揮が可能となる。また、これらの整備に関する地元関係者の意欲は高く、コスト縮減を踏まえて実施することとしている。</p>
事業内容・事業費	<p>森林整備：27,289ha 人工造林、樹下植栽等、下刈り、枝打ち、除伐、間伐、森林作業道等</p> <p>路網整備：2,300m 林業専用道開設</p> <p>総事業費：5,730,537千円</p>
費用対効果分析結果	B/C = 5.26
評価結果	<p>必要性：保育対象林分の賦存状況、森林整備の緊急性等から見て必要性が高い。</p> <p>効率性：投下する費用を上回る効果が見込まれることから、事業の効率性が認められる。</p> <p>有効性：健全な森林づくり等によって水源かん養、国土保全等の機能の確保に加え、将来の優良材の安定的な生産の上で有効である。</p> <p>本計画では、森林の多面的機能を発揮するために必要な森林整備と路網整備が適切に計画されている。</p> <p>また、効率性、有効性も十分に認められることから、森林環境保全整備事業計画として実施することが適当である。</p>

## 便 益 集 計 表

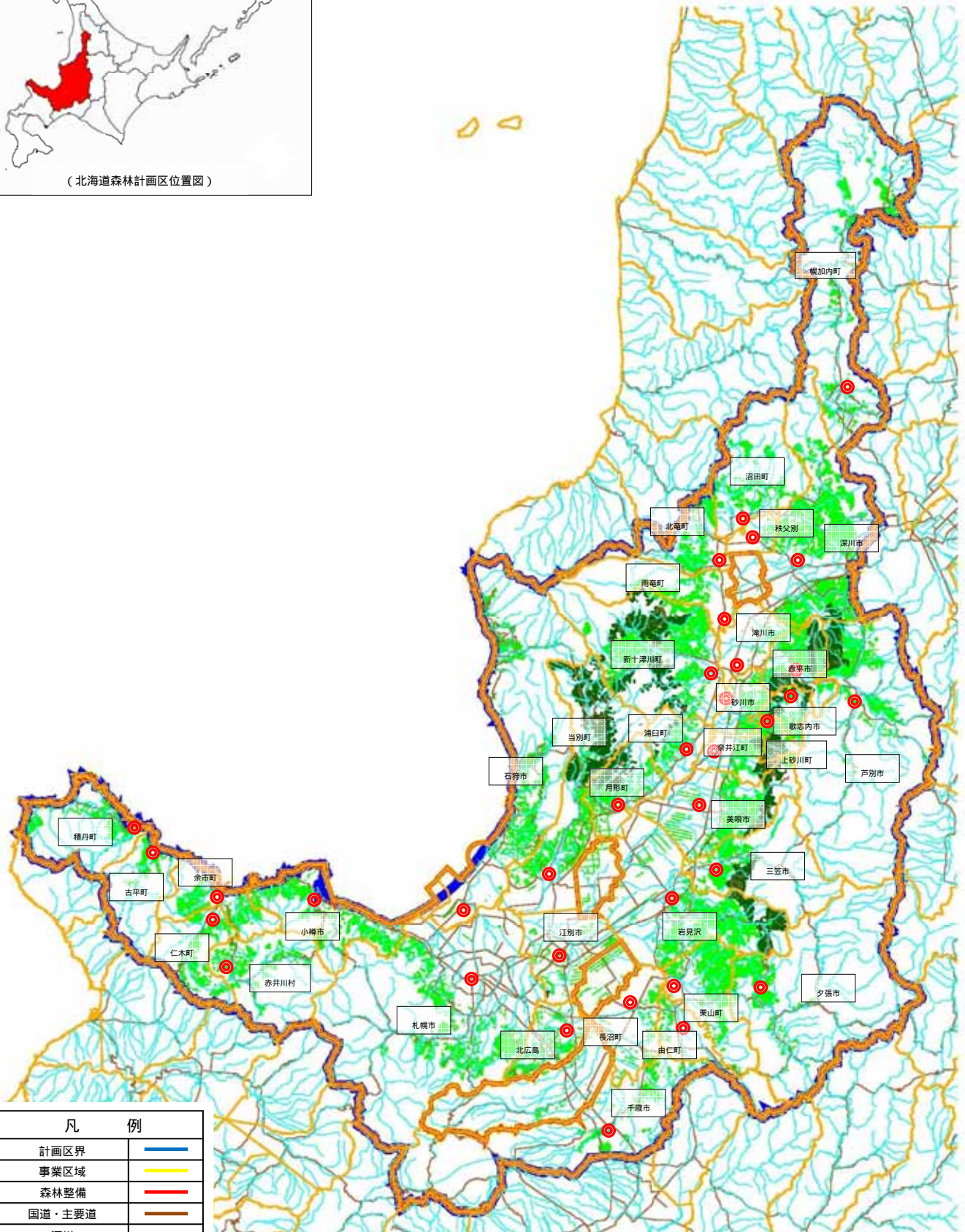
(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業  
 地域名: 石狩空知

北海道  
 (単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	15,202,851	
	流域貯水便益	5,213,233	
	水質浄化便益	8,902,802	
山地保全便益	土砂流出防止便益	24,440,339	
環境保全便益	炭素固定便益	3,524,555	
木材生産便益	木材生産確保・促進便益	2,391,674	
森林整備経費縮減等便益	森林整備促進便益	66,704	
総 便 益 (B)		59,742,158	
総 費 用 (C)		11,336,562	
費用便益比	$B \div C = \frac{59,742,158}{11,336,562} = 5.26$		

# 森林環境保全整備事業 石狩空知地域（北海道）概要図



凡 例	
計画区界	—
事業区域	—
森林整備	—
国道・主要道	—
河川	—
市町村界	—
市町村役場所在地	⊙
一般民有林（人工林）	■
道有林（人工林）	■

## 事前評価個表

整理番号	5
------	---

地域（地区）名	<small>かみかわなんぶ</small> 上川南部地域	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	北海道	対象市町村	旭川市ほか13市町村
事業実施期間	H23 ~ H27（5年間）	事業実施主体	道、市町村、森林組合、森林所有者等

事業の概要・目的	<p>上川南部森林計画区は、北海道のほぼ中央に位置し、中央部は大雪山系、南部は夕張山脈と日高山脈に囲まれ、広大な上川、富良野の各盆地を形成し、中央を大雪山系を水源とする石狩川が貫通し、南部には石狩川の支流である空知川が流れ、広大な沃野を形成している。</p> <p>本計画区の総面積565,477haのうち、森林面積は420,352ha（森林率74%）であり、その内訳は国有林274,155ha、道有林36,886ha、その他一般民有林109,311haとなっている。</p> <p>また、計画区内の林道延長は390,000mで公道等を含む林内道路密度は13.3m/haとなっており、このほかに林道の支線としての作業道が整備されている。</p> <p>一般民有林は、カラマツ、トドマツを主体とした人工林が47,959ha（人工林率44%）であり、うち39%が 齢級以下の若齢級で、適正な保育・間伐を必要とする林齢にあるが、近年の木材価格の低迷と林業従事者の高齢化や不況等から手入れが不十分な森林が見られるようになってきた。</p> <p>このため、上川南部地域森林環境保全整備事業計画を作成し、これに基づく森林整備及び路網整備を推進する必要がある。</p> <p>本計画に基づき森林の配置や齢級構成に応じ整備を行うことによって森林の有する多面的機能の発揮の確保が可能となる。また、林道等は、森林整備や木材生産のほか、地域住民による森林レクリエーション等にも大きな役割を果たすこととなる。</p> <p>その他、他産業との連携等に関しては、農耕地の多くが森林に近接していることから、農林業の振興、農林道の整備において関係部局等との連携を図っている。</p>
事業内容・事業費	<p>森林整備：23,034 ha 人工造林、樹下植栽等、下刈り、枝打ち、除伐、間伐、森林作業道等</p> <p>路網整備：2,930 m 林業専用道開設</p> <p>総事業費：6,109,870千円</p>
費用対効果分析結果	B/C = 4.58
評価結果	<p>必要性：保育対象林分の賦存状況、森林の整備の緊急性等から見て必要性が高い。</p> <p>効率性：投下する費用を上回る効果が見込まれることから、事業の効率性が認められる。</p> <p>有効性：健全な森林づくり等によって水源かん養、国土保全等の機能の確保に加え、将来の優良材の安定的な生産の上で有効である。</p> <p>本計画では、森林の多面的機能を発揮するために必要な森林整備と路網整備が適切に計画されている。</p> <p>また、効率性、有効性も十分に認められることから、森林環境保全整備事業計画として実施することが適当である。</p>

## 便 益 集 計 表

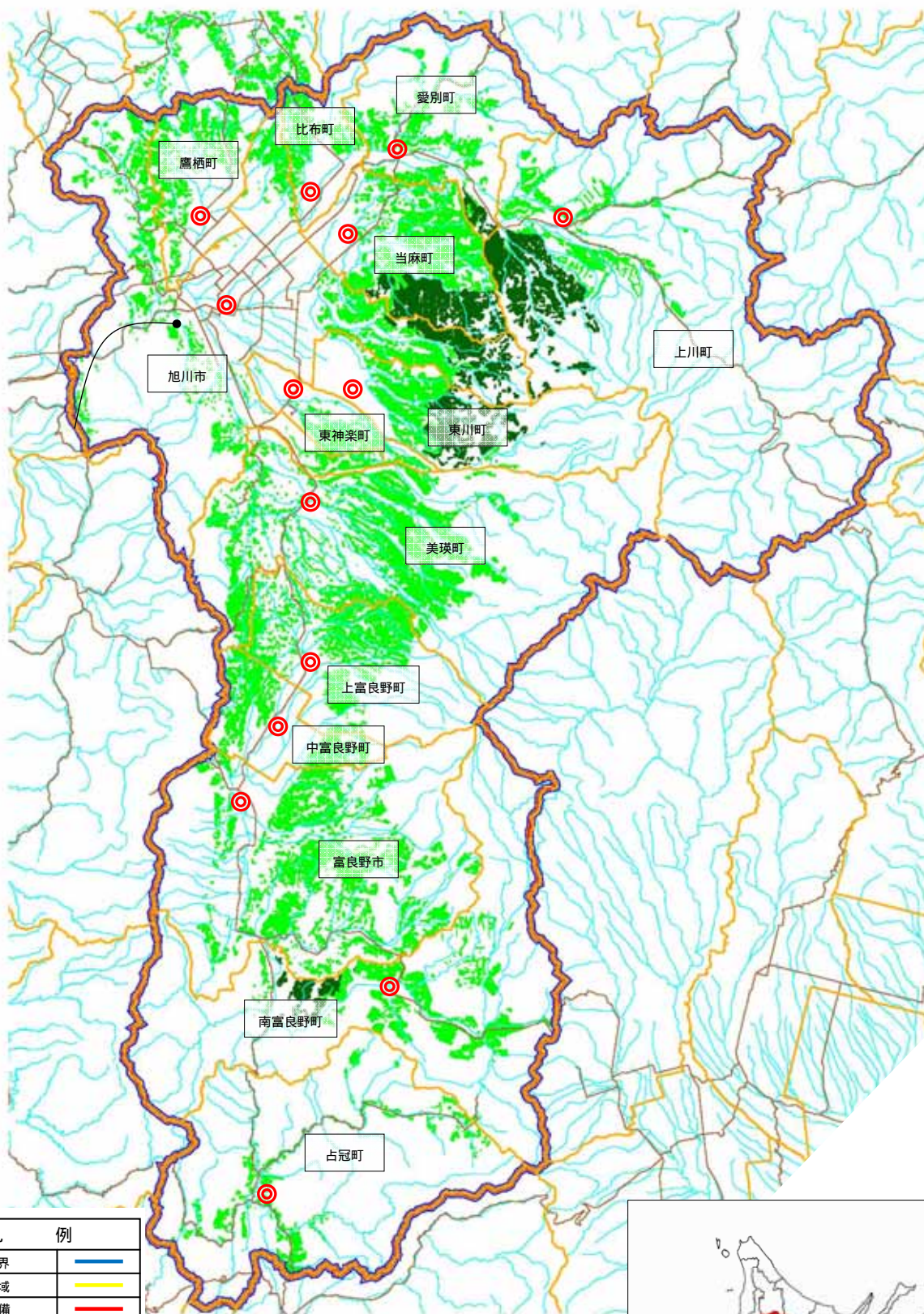
(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業  
 地域名: 上川南部

北海道  
 (単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	12,445,579	
	流域貯水便益	4,292,525	
	水質浄化便益	7,330,562	
山地保全便益	土砂流出防止便益	22,470,984	
環境保全便益	炭素固定便益	3,217,837	
木材生産便益	生産等経費縮減便益	9,640	
	木材生産確保・促進便益	2,998,985	
森林整備経費縮減等便益	造林作業経費縮減便益	161	
	森林整備促進便益	68,615	
総 便 益 (B)		52,834,888	
総 費 用 (C)		11,530,154	
費用便益比	$B \div C = \frac{52,834,888}{11,530,154} = 4.58$		

# 森林環境保全整備事業 上川南部地域（北海道） 概要図



凡	例
計画区界	
事業区域	
森林整備	
国道・主要道	
河川	
市町村界	
市町村役場所在地	
一般民有林(人工林)	
道有林(人工林)	



## 事前評価個表

整理番号	6
------	---

地域（地区）名	網走西部地域	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	北海道	対象市町村	紋別市ほか6町村
事業実施期間	H23～H27（5年間）	事業実施主体	道、市町村、森林組合等

事業の概要・目的	<p>網走西部森林計画区は、北海道の北東部に位置しているオホーツク総合振興局の西半分の地域であり、地域の西部には、南北に連なる北見山地、海側を中心にサロマ湖をはじめとする大小の湖沼群、オホーツク海に流れ込む渚滑川及び湧別川を有する。</p> <p>本計画区の総面積474千haのうち、森林面積は379千ha（森林率約80%）で、うち民有林面積は191千ha（全体の約50%）であり、そのうちトドマツ及びカラマツを主体とした人工林の面積は117千ha（人工林率61%）となっている。また、計画区内の林道延長は730kmで、公道等を含む林内道路密度は10.0m/h aとなっており、このほかに林道の支線としての作業道が整備されている。</p> <p>人工林の樹種はトドマツ、カラマツの順に多く、人工林全体の8割を占めているが、両樹種においては、ほぼ同じ面積を有しており、また、4齢級以下ではアカエゾマツの割合が大きくなっている。天然林についても、天然力を生かした更新補助作業等により森林整備が図られてきたところである。</p> <p>人工林について、主要樹種が複数あることや、齢級配置に偏りが見られるため、資源の持続の観点から計画的に更新を図る必要があると考えられる。</p> <p>また、天然林についても、引き続き更新補助作業等の森林整備を進めることによって、森林の持つ多面的機能の向上を図っていく必要があると思われる。</p> <p>そして、日本最大の森林認証エリアを有している本地域において、環境に配慮した森林経営を行うためには、適正な保育・間伐が必要であると考えられる。</p> <p>このため、網走西部地域森林環境保全整備事業計画を作成し、これに基づく森林整備及び路網整備を推進する必要がある。</p> <p>本計画に基づき、森林整備を行うことによって、森林の有する多面的機能の発揮が可能となる。また、これらの整備に関する地元関係者の意欲は高く、コスト縮減を踏まえて実施することとしている。</p>
事業内容・事業費	<p>森林整備：30,741ha 人工造林、樹下植栽等、下刈り、枝打ち、除伐、間伐、森林作業道等</p> <p>総事業費：6,640,625千円</p>
費用対効果分析結果	B/C =5.21
評価結果	<p>必要性：保育対象林分の賦存状況、森林整備の緊急性等から見て必要性が高い。</p> <p>効率性：投下する費用を上回る効果が見込まれることから、事業の効率性が認められる。</p> <p>有効性：健全な森林づくり等によって水源かん養、国土保全等の機能の確保に加え、将来の優良材の安定的な生産の上で有効である。</p> <p>本計画では、森林の多面的機能を発揮するために必要な森林整備と路網整備が適切に計画されている。</p> <p>また、効率性、有効性も十分に認められることから、森林環境保全整備事業計画として実施することが適当である。</p>

## 便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業  
 地域名: 網走西部

北海道  
 (単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	11,859,380	
	流域貯水便益	4,972,414	
	水質浄化便益	8,488,882	
山地保全便益	土砂流出防止便益	29,132,567	
環境保全便益	炭素固定便益	5,490,156	
木材生産便益	木材生産確保・促進便益	5,770,002	
総 便 益 (B)		65,713,401	
総 費 用 (C)		12,594,796	
費用便益比	$B \div C = \frac{65,713,401}{12,594,796} = 5.21$		



## 事前評価個表

整理番号	7
------	---

地域（地区）名	あばしりとうぶ 網走 東部地域	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	北海道	対象市町村	網走市ほか10市町村
事業実施期間	H23 ～ H27（5年間）	事業実施主体	道、市町村、森林組合等

事業の概要・目的	<p>網走東部森林計画区は、北海道の北東部に位置しているオホーツク総合振興局の東半分地域であり、世界自然遺産に登録された知床半島をはじめ、網走国定公園など自然公園が多く、森と湖と海が調和した自然豊かな地域である。</p> <p>また、地形は、オホーツク海沿岸部には平地が多く、西部に北見山地、南から東にかけては、阿寒、知床連山を源として、網走川・常呂川等の河川が、北見盆地等の平野部を経てオホーツク海に注いでいる。</p> <p>本計画区の総面積595千haのうち、森林面積は391千ha（森林率約66%）で、うち民有林面積は150千ha（全体の約38%）であり、そのうちカラマツ及びトドマツを主体とした人工林の面積は99千ha（人工林率66%）となっている。また、計画区内の林道延長は689kmで、公道等を含む林内道路密度は18.8m/haとなっており、このほかに林道の支線としての作業道が整備されている。</p> <p>本計画区は全道で有数のカラマツ林業地帯であり、一般民有林を中心に広く植栽されている。年齢構成は8～9年齢に集中しており、主伐の時期を迎えているが、次代の主伐対象となる5～6年齢の資源が非常に少なく、偏った資源構成となっている。将来にわたり木材の安定した供給を確保するに当たって、今のうちから資源管理に留意する必要があると考えられる。</p> <p>また、近年、カラマツ材の需要が急増し、一時的に伐採が進む一方で、木材価格が十分に所有者に還元されなかったり、長引く不況から、伐採後造林されない伐採跡地が増加する事態となっている。</p> <p>このことから、地域の森林資源を循環的に利用していくために適切な森林整備を進めていく必要がある。</p> <p>このため、網走東部地域森林環境保全整備事業計画を作成し、これに基づく森林整備及び路網整備を推進する必要がある。</p> <p>本計画に基づき、森林整備を行うことによって、森林の有する多面的機能の発揮が可能となる。また、これらの整備に関する地元関係者の意欲は高く、コスト縮減を踏まえて実施することとしている。</p>
事業内容・事業費	<p>森林整備：32,039ha 人工造林、樹下植栽等、下刈り、枝打ち、除伐、間伐、森林作業道等</p> <p>総事業費：7,483,950千円</p>
費用対効果分析結果	B/C = 4.40
評価結果	<p>必要性：保育対象林分の賦存状況、森林整備の緊急性等から見て必要性が高い。</p> <p>効率性：投下する費用を上回る効果が見込まれることから、事業の効率性が認められる。</p> <p>有効性：健全な森林づくり等によって水源かん養、国土保全等の機能の確保に加え、将来の優良材の安定的な生産の上で有効である。</p> <p>本計画では、森林の多面的機能を発揮するために必要な森林整備と路網整備が適切に計画されている。</p> <p>また、効率性、有効性も十分に認められることから、森林環境保全整備事業計画として実施することが適当である。</p>

整理番号

7

## 便 益 集 計 表

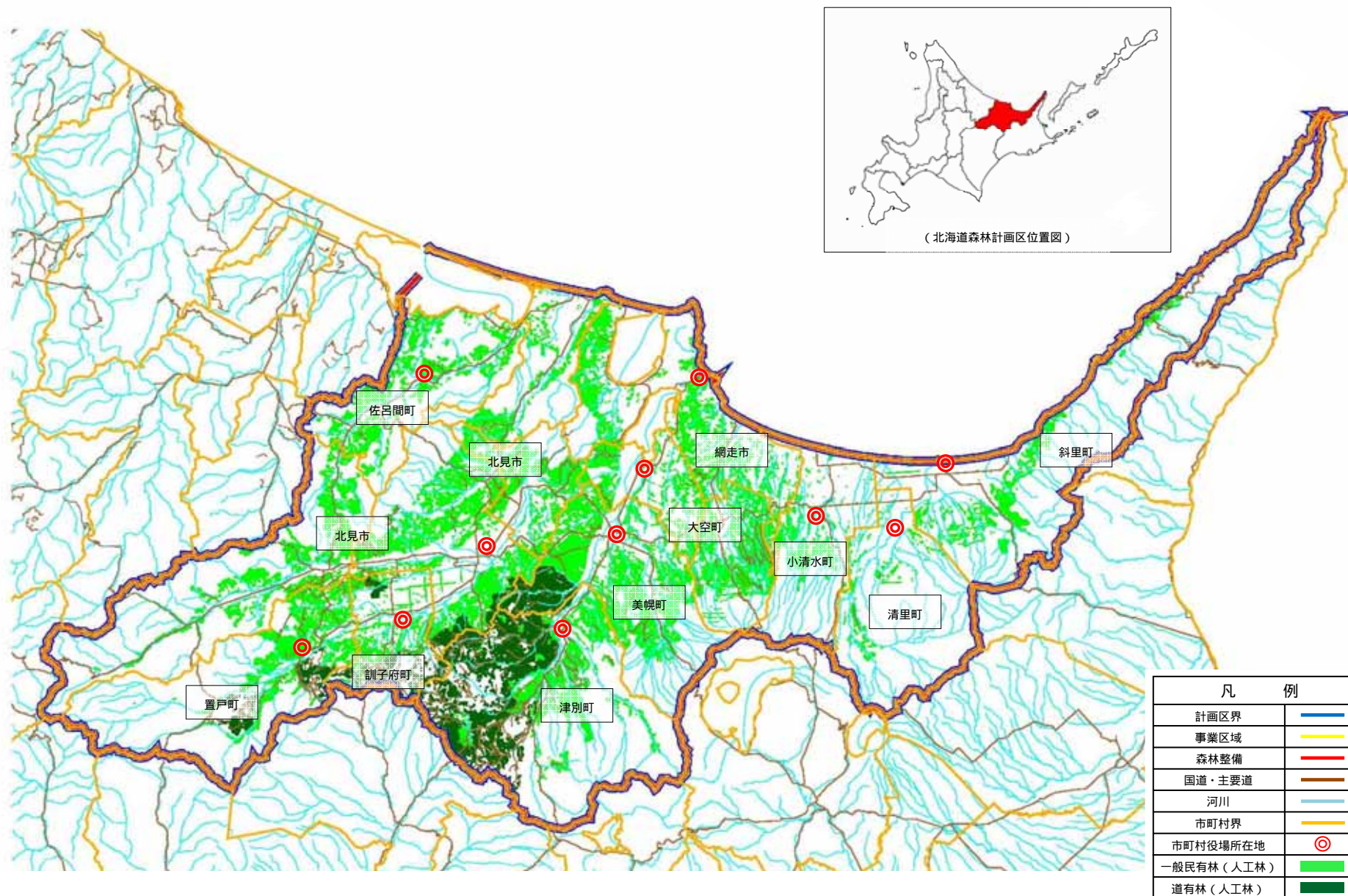
(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業  
 地域名: 網走東部

北海道  
 (単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	12,560,074	
	流域貯水便益	4,318,435	
	水質浄化便益	7,372,413	
山地保全便益	土砂流出防止便益	27,768,440	
環境保全便益	炭素固定便益	5,579,032	
木材生産便益	木材生産確保・促進便益	5,109,148	
総 便 益 (B)		62,707,542	
総 費 用 (C)		14,221,229	
費用便益比	$B \div C = \frac{62,707,542}{14,221,229} = 4.40$		

# 森林環境保全整備事業 網走東部地域（北海道） 概要図



## 事前評価個表

整理番号	8
------	---

地域（地区）名	釧路根室地域	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	北海道	対象市町村	白糠町ほか12市町村
事業実施期間	H23 ~ H27（5年間）	事業実施主体	道、市町村、森林組合等

事業の概要・目的	<p>釧路根室森林計画区は、北海道の東部にある釧路総合振興局と根室振興局を合わせた地域であり、地形は西部から北部に千島火山帯の阿寒・知床山系が連なり、南部から東部にかけて広大な波状台地が広がっている。</p> <p>本計画区の森林面積は558千haで総土地面積の約59%を占め、そのうち民有林は270千ha（49%）ある。</p> <p>計画区内の民有人工林約72千haのうち38千ha（人工林の53%）が 齢級以下で、適正な保育・間伐を必要とする林齢にあるが、林業従事者の高齢化や不況等から手入れが不十分な森林が見られるようになってきた。</p> <p>一方、民有カラマツ林約34千haのうち20千ha（59%）が 齢級以上で、伐期を迎える林齢にあるが、近年カラマツ材の需要が急増しているため、一時的に伐採が進み、伐採後造林されない伐採跡地が増加することのないように造林未済地の解消に努めていく。</p> <p>このため、釧路根室地域森林環境保全整備事業計画を作成し、これに基づく森林整備及び路網整備を推進する必要がある。</p>
事業内容・事業費	<p>森林整備：39,112ha 人工造林、樹下植栽等、下刈り、枝打ち、除伐、間伐、森林作業道等</p> <p>路網整備：1,630m 林業専用道開設</p> <p>総事業費：8,890,440千円</p>
費用対効果分析結果	B/C = 5.36
評価結果	<p>必要性：保育対象林分の賦存状況、森林整備の緊急性等から見て必要性が高い。</p> <p>効率性：投下する費用を上回る効果が見込まれることから、事業の効率性が認められる。</p> <p>有効性：健全な森林づくり等によって水源かん養、国土保全等の機能の確保に加え、将来の優良材の安定的な生産の上で有効である。</p> <p>本計画では、森林の多面的機能を発揮するために必要な森林整備と路網整備が適切に計画されている。</p> <p>また、効率性、有効性も十分に認められることから、森林環境保全整備事業計画として実施することが適当である。</p>

## 便 益 集 計 表

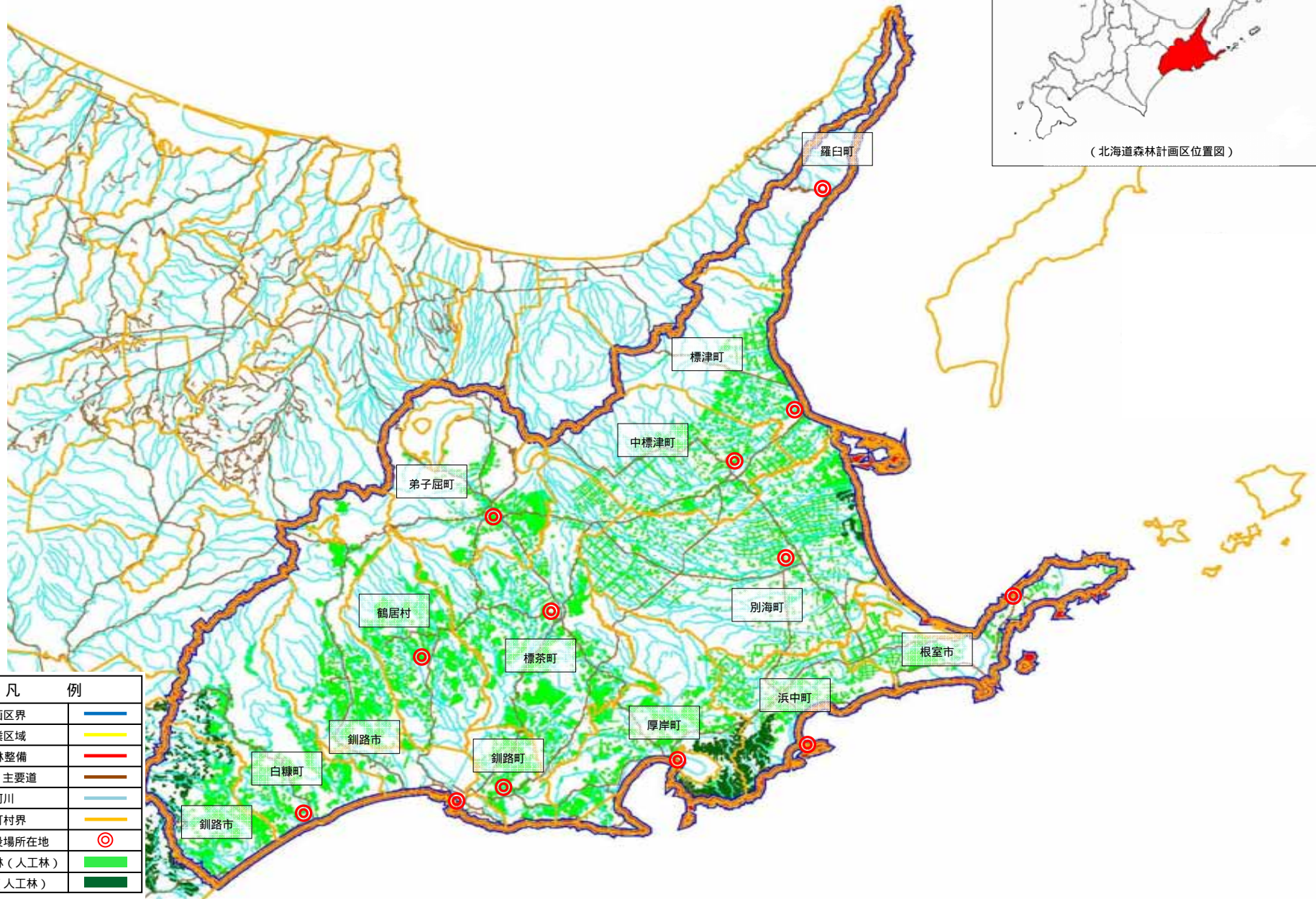
(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業  
 地域名: 釧路根室

北海道  
 (単位: 千円)

水源かん養便益	洪水防止便益	23,990,479	
	流域貯水便益	9,145,056	
	水質浄化便益	15,614,857	
山地保全便益	土砂流出防止便益	37,215,383	
環境保全便益	炭素固定便益	5,289,638	
木材生産便益	生産等経費縮減便益	11,629	
	木材生産確保・促進便益	4,240,540	
森林整備経費縮減等便益	森林整備促進便益	66,994	
総 便 益 (B)		95,574,576	
総 費 用 (C)		17,812,338	
費用便益比	$B \div C = \frac{95,574,576}{17,812,338} = 5.36$		

# 森林環境保全整備事業 釧路根室地域（北海道） 概要図



凡 例	
計画区界	
事業区域	
森林整備	
国道・主要道	
河川	
市町村界	
市町村役場所在地	
一般民有林（人工林）	
道有林（人工林）	

## 事前評価個表

整理番号	9
------	---

地域（地区）名	十勝地域	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	北海道	対象市町村	音更町ほか18市町村
事業実施期間	H23～H27（5年間）	事業実施主体	道、市町村、森林組合等

事業の概要・目的	<p>十勝森林計画区は、北海道の南東部の太平洋側に位置し、西部は日高山脈、北東部は大雪山系に囲まれた地域であり、南部は太平洋に面した道内屈指の平野を形成し、大雪山系十勝岳を源とする十勝川が縦断している。</p> <p>本計画区の総面積1,083,124haのうち、森林面積は692,199ha（森林率64%）で、うち民有林は276,625haあり、カラマツを主体とした人工林の面積は121,683ha（人工林率44%）となっている。また、計画区内の林道延長は639.9kmで、公道等を含む林内道路密度は12.91m/haとなっており、このほかに林道の支線としての作業道が整備されている。</p> <p>計画区内の人工林121,683haのうち46,577ha（人工林の38%）がⅦ齢級以下で、適正な保育・間伐を必要とする林齢にあるが、近年の木材価格の低迷と林業従事者の高齢化や不況等から手入れが不十分な森林が見られるようになってきた。</p> <p>このため、十勝地域森林環境保全整備事業計画を作成し、これに基づく森林整備及び路網整備を推進する必要がある。</p>
事業内容・事業費	<p>森林整備：34,932ha 人工造林、樹下植栽等、下刈り、枝打ち、除伐、間伐、森林作業道等</p> <p>路網整備：3,000m 林業専用道開設</p> <p>総事業費：11,590,400千円</p>
費用対効果分析結果	B/C =4.91
評価結果	<p>必要性：保育対象林分の賦存状況、森林整備の緊急性等から見て必要性が高い。</p> <p>効率性：投下する費用を上回る効果が見込まれることから、事業の効率性が認められる。</p> <p>有効性：健全な森林づくり等によって水源かん養、国土保全等の機能の確保に加え、将来の優良材の安定的な生産の上で有効である。</p> <p>本計画では、森林の多面的機能を発揮するために必要な森林整備と路網整備が適切に計画されている。</p> <p>また、効率性、有効性も十分に認められることから、森林環境保全整備事業計画として実施することが適当である。</p>

## 便 益 集 計 表

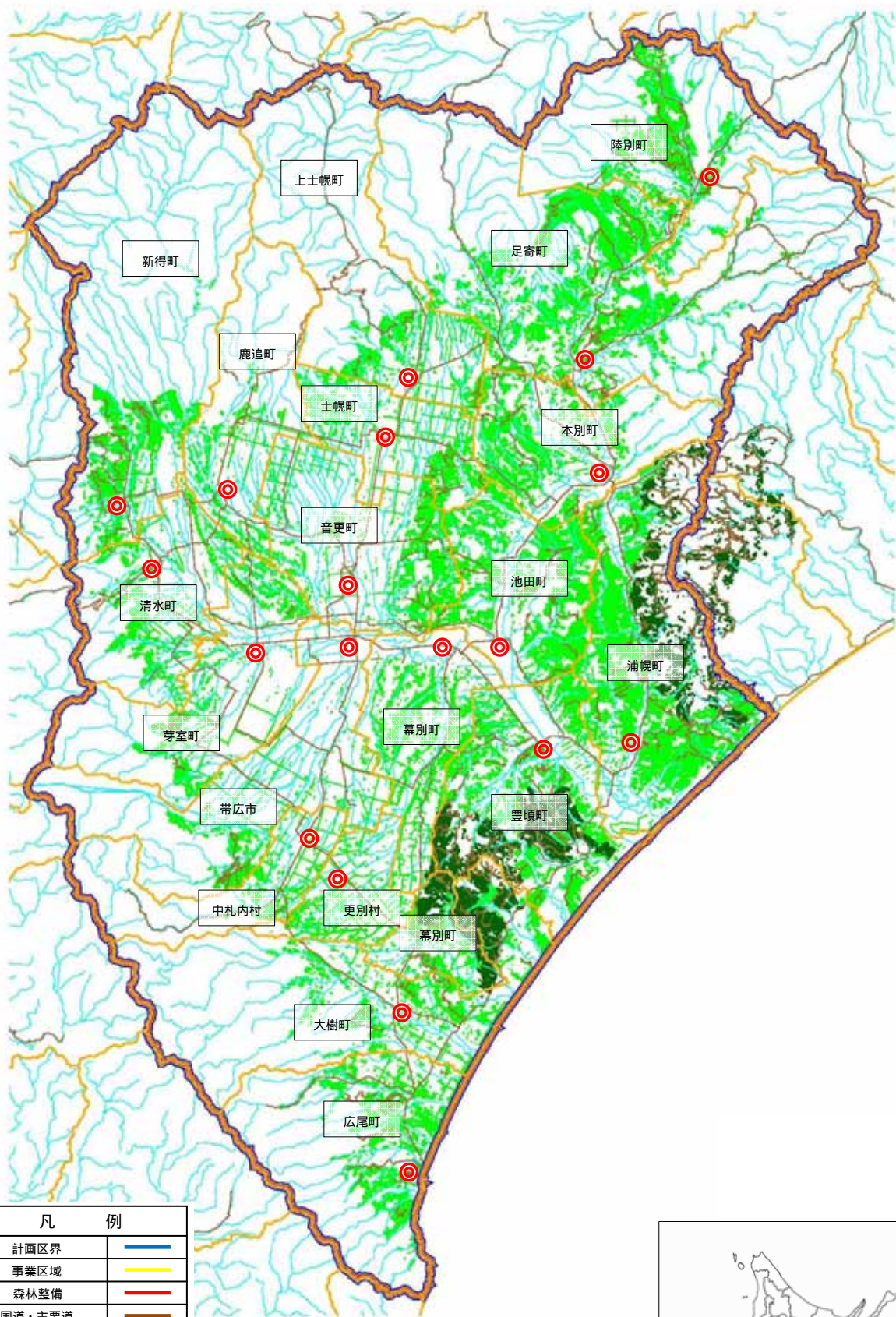
(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業  
 地域名: 十勝

北海道  
 (単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	21,883,716	
	流域貯水便益	9,768,169	
	水質浄化便益	16,680,102	
山地保全便益	土砂流出防止便益	45,002,473	
環境保全便益	炭素固定便益	6,948,478	
木材生産便益	木材生産確保・促進便益	5,502,950	
森林整備経費縮減等便益	森林整備促進便益	91,487	
総 便 益 (B)		105,877,375	
総 費 用 (C)		21,559,215	
費用便益比	$B \div C = \frac{105,877,375}{21,559,215} = 4.91$		

# 森林環境保全整備事業 十勝地域(北海道)概要図



凡 例	
計画区界	— (Brown line)
事業区域	— (Yellow line)
森林整備	— (Red line)
国道・主要道	— (Orange line)
河川	— (Blue line)
市町村界	— (Yellow line)
市町村役場所在地	◎ (Red circle)
一般民有林(人工林)	■ (Light Green)
道有林(人工林)	■ (Dark Green)



## 事前評価個表

整理番号	10
------	----

地域（地区）名	<small>いぶりとうぶ</small> 胆振東部地域	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	北海道	対象市町村	白老町ほか4市町
事業実施期間	H23～H27（5年間）	事業実施主体	道、市町、森林組合、森林所有者等

事業の概要・目的	<p>胆振東部森林計画区は、北海道の中南部にある胆振総合振興局の東部に位置した地域であり、地形は緩やかな丘陵山脈、南は全市町が太平洋に面した東西に長い計画区である。</p> <p>本計画区の総面積233,900haのうち、森林面積は162,737ha（森林率70%）で、そのうちカラマツ及びトドマツを主体とした人工林の面積は59,314ha（人工林率36%）となっている。また、民有林内の林道延長は284,221mで、公道等を含む林内道路密度は3.9m/haとなっており、このほかに林道の支線としての作業道が整備されている。</p> <p>計画区内の民有人工林28,285haのうち10,400ha（人工林の37%）がⅦ齢級以下で、適正な保育・間伐を必要とする林齢にある。これまでも間伐材の利用に取り組んできたが、さらに間伐遅れ林分の施業を行い、「間伐材等の林地残材」を積極的・有効的に利用していくとともに、間伐だけでなく「未立木地及び伐採跡地」の早期解消に努め、森林の公益的機能の発揮に努める。</p> <p>このため、胆振東部地域森林環境保全整備事業計画を作成し、これに基づく森林整備及び路網整備を推進する必要がある。</p>
事業内容・事業費	<p>森林整備：20,500ha 人工造林、樹下植栽等、下刈り、枝打ち、除伐、間伐、森林作業道等</p> <p>総事業費：4,550,180千円</p>
費用対効果分析結果	B/C = 5.57
評価結果	<p>必要性：保育対象林分の賦存状況、森林整備の緊急性等から見て必要性が高い。</p> <p>効率性：投下する費用を上回る効果が見込まれることから、事業の効率性が認められる。</p> <p>有効性：健全な森林づくり等によって水源かん養、国土保全等の機能の確保に加え、将来の優良材の安定的な生産の上で有効である。</p> <p>本計画では、森林の多面的機能を発揮するために必要な森林整備と路網整備が適切に計画されている。</p> <p>また、効率性、有効性も十分に認められることから、森林環境保全整備事業計画として実施することが適当である。</p>

## 便 益 集 計 表

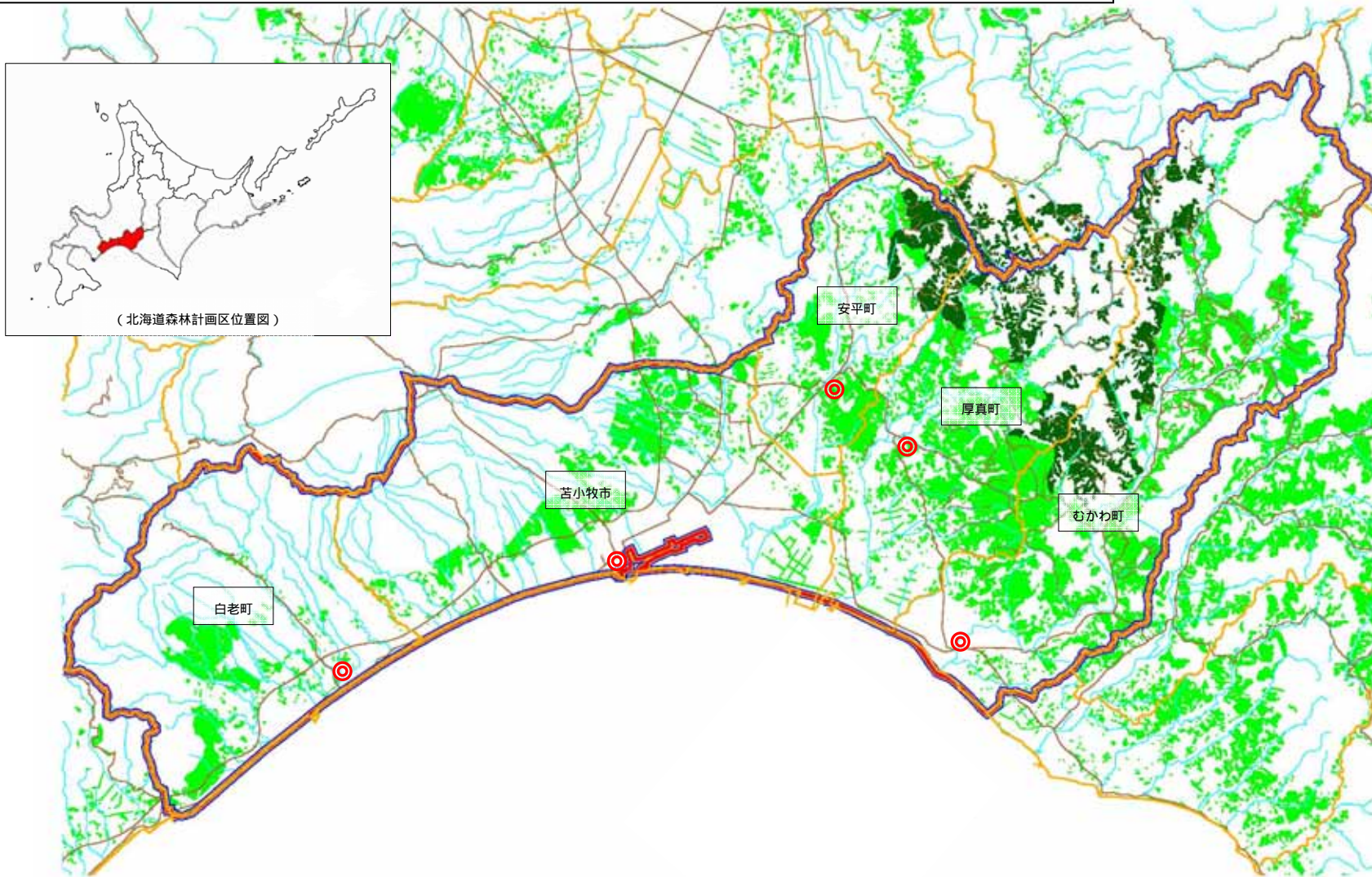
(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業  
 地域名: 胆振東部

北海道  
 (単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	8,648,681	
	流域貯水便益	3,912,008	
	水質浄化便益	6,678,562	
山地保全便益	土砂流出防止便益	15,934,113	
環境保全便益	炭素固定便益	2,213,044	
木材生産便益	木材生産確保・促進便益	1,402,000	
総 便 益 (B)		38,788,408	
総 費 用 (C)		6,952,559	
費用便益比	$B \div C = \frac{38,788,408}{6,952,559} = 5.57$		

# 森林環境保全整備事業 胆振東部地域（北海道）概要図



(北海道森林計画区位置図)

凡 例	
計画区界	— (Blue line)
事業区域	— (Yellow line)
森林整備	— (Red line)
国道・主要道	— (Brown line)
河川	— (Light blue line)
市町村界	— (Thin yellow line)
市町村役場所在地	◎ (Red circle with dot)
一般民有林（人工林）	■ (Light green)
道有林（人工林）	■ (Dark green)

## 事前評価個表

整理番号	11
------	----

地域（地区）名	ひだか 日高地域	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	北海道	対象市町村	平取町ほか6町
事業実施期間	H23 ~ H27（5年間）	事業実施主体	道、町、森林組合等

事業の概要・目的	<p>日高森林計画区は、北海道の中央南西部に位置し、北海道の背骨と言われる南北に連なる急峻な日高山脈とほぼそれに並行して走る海岸線に挟まれている。</p> <p>本計画区の総面積は481,196haのうち、森林面積は402,206ha（森林率84%）で、道内で最も森林の割合が高い地域である。</p> <p>民有林は170,543ha、そのうち天然林が125,357ha（天然林率74%）と天然林資源が豊富な地域である。人工林はトドマツ、カラマツを主体として41,833ha（人工林率25%）となっている。また、計画区内の林道延長は512km、公道等を含む林内道路密度は9.1m/haとなっており、このほかに林道の支線として作業道が整備されている。</p> <p>計画区内の民有林人工林の約7割をトドマツ、カラマツが占めるが、カラマツ14,109haのうち 齢級以上が10,242haと約7割を占め、主伐期を迎えつつあることから計画的な更新や長伐期施業への推進を図る必要がある。一方、トドマツは17,947haのうち 齢級以下が10,383haと約6割を占めており、適正な保育・間伐を必要とする林齢にあるが、近年の木材価格の低迷などにより、森林所有者の森林整備に対する意欲が減退し、手入れ不足の森林が見られる状況にある。</p> <p>このため、日高地域森林環境保全整備事業計画を作成し、これに基づく森林整備及び路網整備を推進する必要がある。</p>
事業内容・事業費	<p>森林整備：22,615 ha 人工造林、樹下植栽等、下刈り、枝打ち、除伐、間伐、森林作業道等</p> <p>総事業費：5,366,505千円</p>
費用対効果分析結果	B/C = 6.51
評価結果	<p>必要性：保育対象林分の賦存状況、森林整備の緊急性等から見て、必要性が高い。</p> <p>効率性：投下する費用を上回る効果が見込まれることから、事業の効率性が認められる。</p> <p>有効性：健全な森林づくり等によって水源かん養、国土保全等の機能の確保に加え、将来の優良材の安定的な生産の上で有効である。</p> <p>本計画では、森林の多面的機能を発揮するために必要な森林整備と路網整備が適切に計画されている。</p> <p>また、効率性、有効性も十分に認められることから、森林環境保全整備事業計画として実施することが適当である。</p>

## 便 益 集 計 表

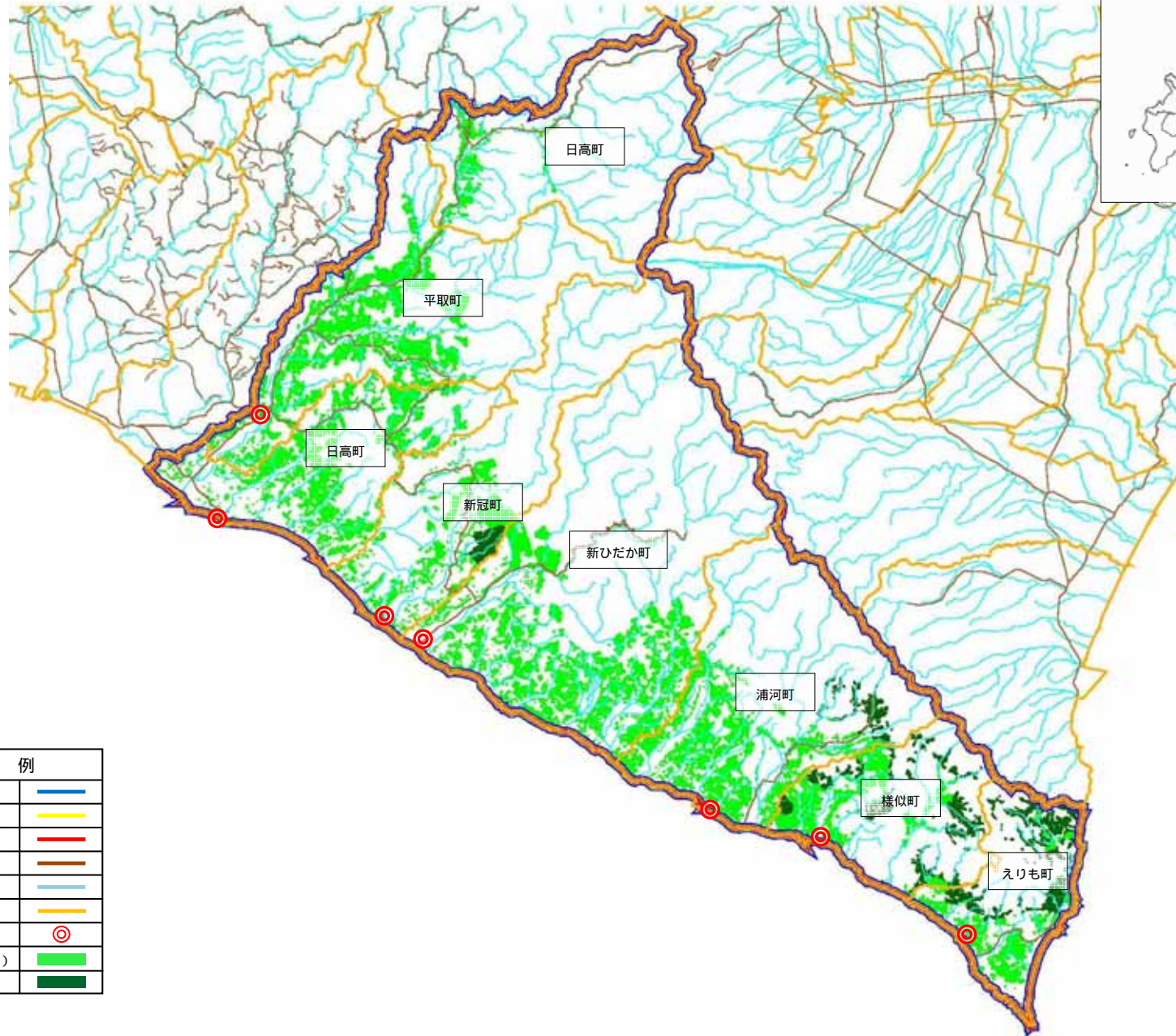
(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業  
 地域名: 日高

北海道  
 (単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	12,018,076	
	流域貯水便益	6,503,223	
	水質浄化便益	11,102,274	
山地保全便益	土砂流出防止便益	25,304,918	
環境保全便益	炭素固定便益	2,753,897	
木材生産便益	木材生産確保・促進便益	1,521,846	
総 便 益 (B)		59,204,234	
総 費 用 (C)		9,093,929	
費用便益比	$B \div C = \frac{59,204,234}{9,093,929} = 6.51$		

# 森林環境保全整備事業 日高地域（北海道）概要図



凡 例	
計画区界	
事業区域	
森林整備	
国道・主要道	
河川	
市町村界	
市町村役場所在地	
一般民有林（人工林）	
道有林（人工林）	

## 事前評価個表

整理番号	1 2
------	-----

地域（地区）名	<small>しりべしいぶり</small> 後志胆振地域	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	北海道	対象市町村	島牧村ほか16市町村
事業実施期間	H 2 3 ~ H 2 7（5年間）	事業実施主体	道、市町村、森林組合、森林所有者等

事業の概要・目的	<p>後志胆振森林計画区は、北海道の中央から南西部に位置し、後志総合振興局管内中南部と胆振総合振興局管内西部を区域とする。</p> <p>東部には鷲別岳、オロフレ山、ホロホロ山が南北に並び、無意根山から積丹半島の脊梁を境に、南部は内浦湾から狩場山を境に日本海に面する。</p> <p>本計画区の総面積440,343haのうち、森林面積は323,518ha（森林率73%）で、そのうち民有林面積は193,719ha（全体の60%）となっており、そのうちカラマツ及びトドマツを主体とした人工林の面積は45,765ha（人工林率24%）となっている。</p> <p>本計画区の森林は、林地分譲地などに見られる森林経営を第一目的としない道外の不在村森林所有者による無立木地が多く見られ、また、林業採算性の悪化などによる森林整備に対する意欲の低下と森林整備への投資控えなどから手入れ不足の森林が増える恐れがある。</p> <p>このため、後志胆振地域森林環境保全整備事業計画を作成し、これに基づく森林整備及び路面整備を推進する必要がある。</p>
事業内容・事業費	<p>森林整備：30,174 ha 人工造林、樹下植栽等、下刈り、枝打ち、除伐、間伐、森林作業道等</p> <p>総事業費：6,586,620千円</p>
費用対効果分析結果	B/C = 5.61
評価結果	<p>必要性：保育対象林分の既存状況、森林整備の緊急性等から見て必要性が高い。</p> <p>効率性：投下する費用を上回る効果が見込まれることから、事業の効率性が認められる。</p> <p>有効性：健全な森林づくり等によって水源かん養、国土保全等の機能の確保に加え、将来の優良材の安定的な生産の上で有効である。</p> <p>本計画では、森林の多面的機能を発揮するために必要な森林整備と路網整備が適切に計画されている。</p> <p>また、効率性、有効性も十分に認められることから、森林環境保全整備事業計画として実施することが適当である。</p>

## 便 益 集 計 表

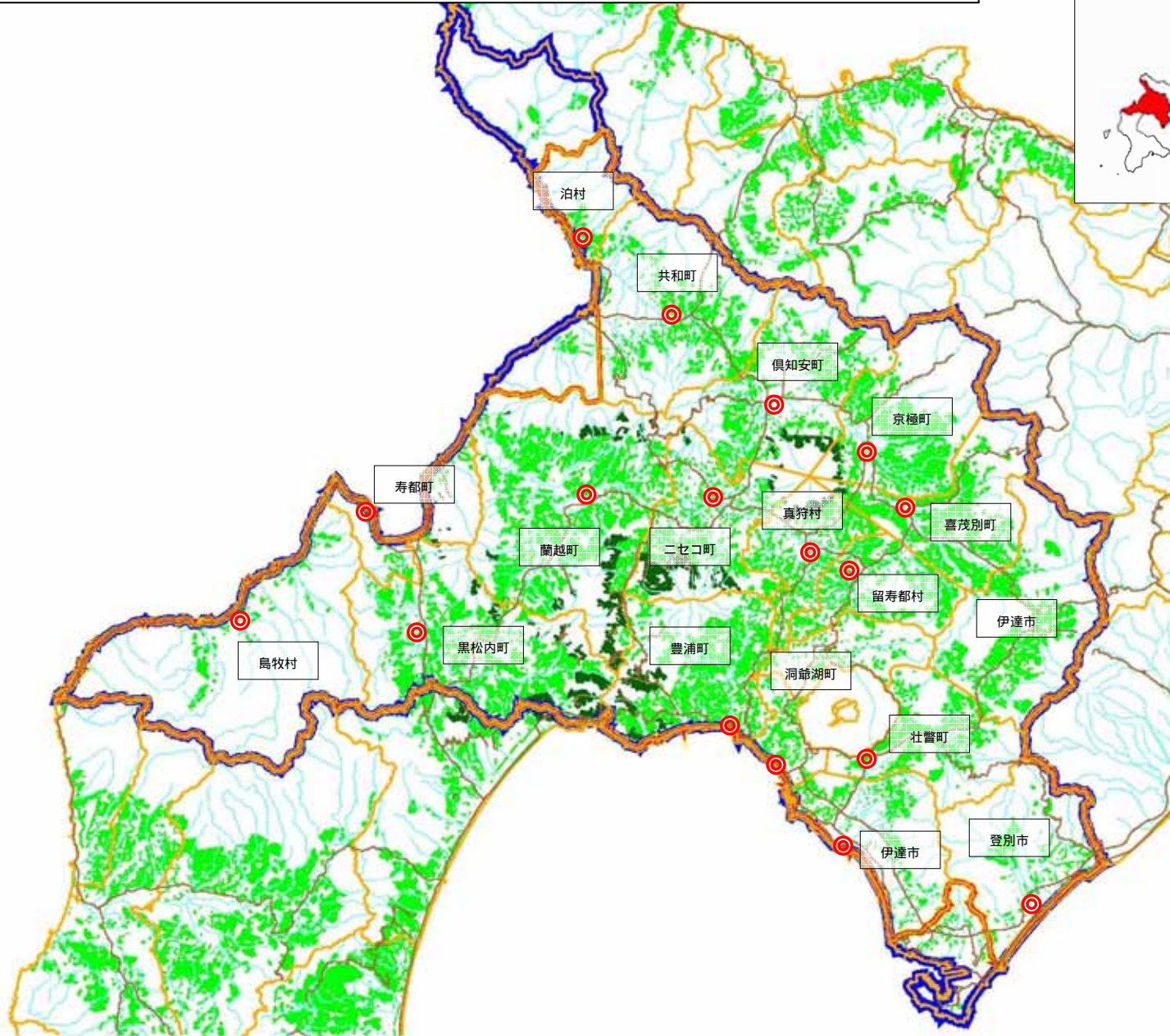
(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業  
 地域名: 後志胆振

北海道  
 (単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	14,260,394	
	流域貯水便益	7,674,755	
	水質浄化便益	13,102,308	
山地保全便益	土砂流出防止便益	30,026,279	
環境保全便益	炭素固定便益	4,123,372	
木材生産便益	木材生産確保・促進便益	2,324,352	
総 便 益 (B)		71,511,460	
総 費 用 (C)		12,738,049	
費用便益比	$B \div C = \frac{71,511,460}{12,738,049} = 5.61$		

# 森林環境保全整備事業 後志胆振地域（北海道）概要図



凡 例	
計画区界	— (Blue line)
事業区域	— (Yellow line)
森林整備	— (Red line)
国道・主要道	— (Brown line)
河川	— (Light blue line)
市町村界	— (Orange line)
市町村役場所在地	◎ (Red circle)
一般民有林（人工林）	■ (Light green)
道有林（人工林）	■ (Dark green)